

血液内科

■ スタッフ

科長		俵 功
副科長		杉本 由香
医師	常勤	4名
	併任	9名
	専攻医	3名
	非常勤	0名
看護師	常勤	26名
	非常勤	0名
	(造血細胞移植後フォローアップ)	3名
臨床心理士	非常勤	1名

■ 特色・診療対象疾患

当診療科では、血液専門医・指導医ならびにそれを志す専攻医により、あらゆる血液疾患に対する診断と治療を行っています。治療方針に関しては、定期的に行われる検討会で議論し、標準的治療法はもとより科学的根拠に基づく最新の治療法に至るまで、患者さんとよく相談し、個々の患者さんの病状に応じた最善の治療を提供できるよう心がけています。また血液疾患の診断、治療に関する研究を行い、その成果を三重県内外の患者さんに還元できるよう努めています。

外来診療では、月、火、水、金曜日には初診外来を開設し、再診外来は毎日開設しています。他医療機関および院内の他診療科から紹介いただいた患者さんに対しましては、中央診療部門ならびに他診療科と連携して、短時間での診断および治療方針の決定に努めています。

入院診療では、11階北病棟に県内最大（18床）のクリーンフロアを有しており、その中で6室（16床）の準無菌室および2室（各1床）の無菌治療室を運用し、無菌管理を必要とする化学療法や造血幹細胞移植を行っています。また一般病室も運用しており、クリーンフロアと合わせて25名ほどの患者さんの入院診療を行っています。11階は病棟としては当院最上階であり、各病室からは伊勢湾、鈴鹿山系の山々を一望することができ、快適性向上の一助となっています。

また患者さんが安心して治療に専念できるよう、病棟および外来部門スタッフ一同が協力して、患者さんやご家族のサポートを心がけています。

1. 当科の特色

- 三重県における血液内科診療の中心的施設として、他医療機関と連携しながら県内の血液疾患診療の充実に努めています。
- 県内2施設の同種造血幹細胞移植実施施設の1つとして、他施設からの紹介も受けて骨髄移植、末梢血幹細胞移植、臍帯血移植やCAR-T（キメラ抗原受容体発現T細胞）療法などの細胞治療を行っています。
- 細分化された造血器腫瘍の病型を確定するための病理組織検査および遺伝子検査を、病理部、中央検査部の協力を得て、院内で実施しています。
- 新たな治療法開発に向けた多施設共同臨床試験を実施しています。
- 新規医薬品・細胞療法製剤の開発に向けた治験を実施しています。
- 血液疾患の患者さんの良好な療養環境整備を目的とした各種調査を実施しています。

2. 主な診療対象疾患

- 造血幹細胞の異常による疾患**
白血病（急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病）や骨髄異形成症候群、骨髄増殖性腫瘍（慢性骨髄性白血病、真性赤血球増加症、本態性血小板血症、骨髄線維症）、骨髄不全症候群（再生不良性貧血、発作性夜間ヘモグロビン尿症）などの診断・治療を行っています。
- リンパ系腫瘍**
悪性リンパ腫および多発性骨髄腫を中心とし、原発性アミロイドーシス、その他良性のリンパ増殖性疾患の診療を行っています。
- 血栓・止血異常**
輸血・細胞治療部、中央検査部、オーダーメイド医療部、他の診療科などのスタッフと定期的に検討会を実施し、協力して血栓・止血異常症の診療を行っています。
- HIV感染症・AIDS**
HIV感染症治療においては、中核拠点病院として、多職種の協力による診療を行っています。

■ 活動実績

当診療科は、三重県における血液疾患診療の中心

的施設として、院内および他医療機関より患者さんの紹介を受けています。2021年4月1日から2022年3月31日までの外来患者さんの数は、初診：164人、入院中他科からの紹介：14人、再来（のべ人数）：7890人、入院件数はのべ件数が6639件で実患者数が249人でした。すべての患者さんが正確な診断に基づく適切な医療を、速やかに受けられるよう、院内各部署および県内医療機関と協力し診療を行っています。当診療科の診療活動の概要と実績は以下の通りです。

- ・造血器腫瘍、骨髄不全症候群に対する化学療法、分子標的療法、分化誘導療法、抗体療法、免疫抑制療法、放射線治療：

患者さんの病状に応じて、これらの治療法を組み合わせて最適な治療を行っています。

- ・白血病やリンパ腫に対するより良い治療を開発するための臨床研究：

日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）、日本成人白血病研究グループ（JALSG）等に参加して、より良い治療法を開発するために、全国規模の臨床研究を行っています。

- ・造血器腫瘍および骨髄不全症候群に対する造血幹細胞移植：

骨髄移植、末梢血幹細胞移植、臍帯血移植のいずれにも対応し、骨髄非破壊の前処置を用いた移植など、病態と全身状態に応じた移植法の最適化を目指しています。

- ・骨髄増殖性腫瘍における遺伝子検査：

JAK2 V617F、*JAK2* exon 12、*CALR*、*MPL* 変異解析等を保険診療内で行なっている他、次世代シーケンサーを用いた遺伝子変異検出の臨床試験を中央検査部の協力を得て院内で行っています。

- ・治験：

造血器腫瘍に対する抗体医薬品、細胞療法製剤の治験を行っています。

1. 治療実績

2022年 血液内科入院病名内訳（主なもの）

病名	新患	合計
悪性リンパ腫	27	52
急性白血病	7	20
形質細胞腫瘍（骨髄腫）	3	11
非典型溶血性尿毒症症候群	3	4
慢性骨髄性白血病	1	2

血栓症血小板減少性紫斑病	2	2
再生不良性貧血	1	3
特発性血小板減少性紫斑病	2	4
後天性血友病	2	3
キャッスルマン病	2	2

（新患：新たに上記診断のため当科に入院された方）

造血幹細胞採取件数

骨髄バンクドナー	4
血縁者ドナー	2

造血幹細胞移植実施件数

- ・ 血縁者間造血幹細胞移植 2件
- ・ 非血縁者間造血幹細胞移植 6件
- ・ 臍帯血移植 2件
- ・ 自家造血幹細胞移植 0件

2. 教育活動の実績

- ・ 新医学専攻コース（1年生～6年生）における指導
- ・ 初期医学教育「医療と社会」（1年生）における指導
- ・ 研究室研修（3年生）における指導
- ・ 臨床実習（4年生～6年生）における指導
- ・ チュートリアル（少人数）教育（3年生）における指導および講義
- ・ 大学院生に対する研究指導


3. 臨床研究等の実績

- ・ 未治療低腫瘍量進行期濾胞性リンパ腫に対するリツキシマブ療法早期介入に関するランダム化比較第Ⅲ相試験（JCOG1411）：3例
- ・ 未治療高腫瘍量濾胞性リンパ腫に対するオビヌツズマブ+ベンダムスチン療法後のオビヌツズマブ維持療法の省略に関するランダム化第Ⅲ相試験（JCOG2008）：1例

■ 今後の展望

血液疾患の患者さんは今後増加することが見込まれ、当診療科ではすべての患者さんが正確な診断に基づく適切な治療を速やかに受けただけのよう、他の医療機関との連携を進めていきます。また大学

病院として、新たな治療法の開発を目指した臨床試験、治験を推進するとともに、造血幹細胞移植やCAR-T療法などの細胞治療を推進していきます。新たな治療法の開発により、今後標準的治療法が変わっていくことが予想されますが、多くの患者さんにより効果的な治療を提供できるよう、体制を整備していきます。

 <http://www.hosp.mie-u.ac.jp/naika2/>